

MySQL 5.1.35 リリースノート（日本語翻訳）

Windows の場合、このリリースの MySQL では以下の 2 つの問題が未解決であることがわかっている。

- **.msi** インストーラは、最初の構成試行時に既存の **root** パスワードを検出しない。これを回避するには、MySQL のインストールと構成を通常どおり行うが、セキュリティの変更はすべてスキップする（構成ウィザードのセキュリティ画面には、この操作を可能にするチェックボックスがある）。次に、以下の設定をチェックする。
 - 古い **root** パスワードとセキュリティ設定に問題がない場合は、作業終了となり、MySQL の使用に移ることができる。
 - それ以外の場合は、ウィザードを使用して再構成し、その 2 回目の構成試行で任意の変更を行う。ウィザードは既存の **root** パスワードの入力を正しく要求し、変更を行うことを許可する。

この問題は、今後のリリースで修正するために [Bug#45200](#) として提起されている。

- Windows 構成ウィザードでは、再構成の操作中に InnoDB 設定を変更できる。アップグレードの場合は、これによって問題が生じる可能性がある。これを回避するには、以下のいずれかの方法を使用する。
 - InnoDB 設定を変更しない
 - 古い InnoDB ロケーションから新しい InnoDB ロケーションにファイルをコピーする

この問題は、今後のリリースで修正するために [Bug#45201](#) として提起されている。

修正されたバグ:

- **重要な変更: レプリケーション:** [STOP SLAVE](#) のトランザクショナル動作が変更されている。以前はトランザクション内部であっても直ちに有効になっていたが、現在は、レプリケーションイベントグループの実行が終了するまで（レプリケーションイベントグループが存在する場合）、あるいはユーザが [KILL QUERY](#) または [KILL CONNECTION](#) ステートメントを発行するまで待機するようになった。

非トランザクショナルスレーブがマスタ上でトランザクションを複製している間にレプリケーションが停止されると発生する問題を解決するために、この変更が行われた（いずれかのエンジンが非トランザクショナルの場合は、混合エンジントランザクションをロールバックできなかった。つまり、スレーブは、[STOP SLAVE](#) によって中断されたトランザクションを安全に再適用することができなかった）（[Bug#319](#)、[Bug#38205](#)）。

[Bug#43217](#) も参照。

- **パーティショニング:** 値が MAXVALUE 以外の PARTITION ... VALUES LESS THAN (値) 値に等しい場合、対応するパーティションが取り除かれなかった ([Bug#42944](#))。
- **レプリケーション:** [RESET SLAVE](#) の実行中に無関係のエラーが発生すると、スレーブがクラッシュする可能性があった ([Bug#44179](#))。
- **レプリケーション:** 行ベースのログ形式を使用すると、[--slave-skip-errors](#) オプションが無効になった ([Bug#39393](#))。
- **レプリケーション:** 以下のエラーが正しくレポートされなかった。
 - スレーブスレッド初期化中の障害
 - リレーログ位置を初期化している間の障害（スレーブスレッドの開始直後）
 - [--init_slave](#) オプションで渡されたクエリを処理している間の障害

現在は、[SHOW SLAVE STATUS](#) の出力で上記タイプの障害に関する情報を確認できるようにになっている ([Bug#38197](#))。

- **レプリケーション:** DDL ステートメントを実行したスレッドを、そのスレッドが binlog イベントを書き込む前に強制終了すると、binlog イベントのエラーコードが [ER_SERVER_SHUTDOWN](#) または [ER_QUERY_INTERRUPTED](#) に誤って設定されたため、レプリケーションが失敗した ([Bug#37145](#))。

[Bug#27571](#)、[Bug#22725](#) も参照。

- **レプリケーション:** バイナリログでは、サブクエリ内で使用されたカラムエイリアスが無視された ([Bug#35515](#))。
- [DECODE\(\)](#)、[ENCRYPT\(\)](#)、および [FIND_IN_SET\(\)](#) 関数に対する Valgrind 警告が修正された ([Bug#44358](#)、[Bug#44365](#)、[Bug#44367](#))。
- Windows では、win/Makefile.am 内に [build-vs9.bat](#) および [build-vs9_x64.bat](#) のエントリがなかった ([Bug#44353](#))。

- サブクエリ内の **GROUP BY** 句に対する行のファイルソート中に **JOIN_TAB::select** の不完全なクリーンアップを行うと、サーバがクラッシュした ([Bug#44290](#))。
- 正しい記述文字列を持っていないロックタイプがあったため、[mysqladmin debug](#) から不要な出力が生成された ([Bug#44164](#))。
- **INFORMATION_SCHEMA** テーブルで [HANDLER](#) ステートメントを使用すると、サーバがクラッシュした。現在は、**INFORMATION_SCHEMA** テーブルでは [HANDLER](#) が禁止されている ([Bug#44151](#))。
- ストアドプロシージャ内から [SHOW TABLE STATUS](#) を呼び出すと、**Packets out of order** というエラーが発生する可能性があった ([Bug#43962](#))。
- [mysamchk](#) は、負の **Max keyfile length** 値を表示する可能性があった ([Bug#43950](#))。
- 64 ビットのシステムでは、4GB より大きい [key_buffer_size](#) 値を使用すると、**MyISAM** インデックスが壊れる可能性があった ([Bug#43932](#))。
- [mysqld_multi](#) は、誤って [mysqld_safe](#) に `--no-defaults` を渡した ([Bug#43876](#))。
- [SHOW VARIABLES](#) は、[slave_skip_errors](#) の値を正しく表示しなかった ([Bug#43835](#))。
- **Windows** では、浮動小数点値を最大長が変換済みの浮動小数点値の長さよりも短い [CHAR](#) カラムに挿入しようとする時、サーバがクラッシュした ([Bug#43833](#))。
- **MyISAM** テーブルインデックスを正しく初期化しないと、不正なクエリ結果が生成される可能性があった ([Bug#43737](#))。
- `libmysqld` は、再初期化するとクラッシュした ([Bug#43706](#)、[Bug#44091](#))。
- **InnoDB** は、インデックスカーディナリティを計算するために乱数を使用してインデックスへのダイブを生成する。ただし、特定の状況下では、このアルゴリズムは乱数を生成しなかったため、[ANALYZE TABLE](#) はカーディナリティの見積もりを正しく更新しなかった。どのアルゴリズムを使用するのかを制御する [innodb_use_legacy_cardinality_algorithm](#) システム変数と共に、ランダム化プロパティが改善された新しいアルゴリズムが導入されている。この変数のデフォルト値は 1 (ON) で、この場合、元のアルゴリズムを使用して既存のアプリケーションとの互換性が維持される。この変数を 0 (OFF) に設定すると、ランダム性が改善された新しいアルゴリズムを使用できる ([Bug#43660](#))。
- 浮動小数点数の [UNION](#) は、不必要な丸めを行った ([Bug#43432](#))。
- データベースにビューが含まれていると、[ALTER DATABASE ... UPGRADE DATA DIRECTORY NAME](#) が失敗した ([Bug#43385](#))。
- ある特定のステートメントは、テーブルを開いてから、間近に予期されるグローバル読み取りロックを待つ可能性があるが、その際、そのグローバル読み取りロックが待ち受けているテーブルを保持しているかどうかを確認しないため、ハングが発生した。影響を受けたステートメントは、[SELECT ... FOR UPDATE](#)、[LOCK](#)

[TABLES ... WRITE](#)、[TRUNCATE TABLE](#)、および [LOAD DATA INFILE](#) である ([Bug#43230](#))。

- [ExtractValue\(\)](#)などの XML 関数を 1つのクエリで複数回使用すると、誤った結果が生成される可能性があった ([Bug#43183](#))。

[Bug#43937](#) も参照。

- 全文プリフィックス検索を行うと、接続がハングし、CPU 消費率が 100%になる可能性があった ([Bug#42907](#))。
- InnoDB には、文字セット mutex について過度の競合があった ([Bug#42649](#))。
- 安全でないステートメントについて警告メッセージがエラーメッセージに不正に昇格されたため、サーバがクラッシュした ([Bug#42640](#))。
- [REPAIR TABLE](#) によってサポートされないストレージエンジンの場合、[CHECK TABLE](#) は破損したテーブルに対する [REPAIR TABLE](#) の使用を推奨した。現在、[CHECK TABLE](#) はユーザがテーブルをダンプして再ロードすることを推奨するようになっている ([Bug#42563](#))。
- [mysampack](#) ユーティリティでテーブルを圧縮すると、サーバはそのテーブルを開くときに Valgrind 警告を生成した ([Bug#41541](#))。
- [DELAY_KEY_WRITE](#) が有効になっている MyISAM テーブルの場合、サーバを強制終了すると、そのテーブルにクラッシュマークが付けられることなくインデックスファイルが破損する可能性があった ([Bug#41330](#))。
- MyISAM テーブルにインデックスがある場合、そのテーブルに対する [INSERT ... SELECT](#) ステートメントを強制終了すると、テーブルが破損する可能性があった ([Bug#40827](#))。
- 外部キー制約に関係する複数テーブルの [DELETE IGNORE](#) ステートメントは、表明違反を発生した ([Bug#40127](#))。
- 複数テーブルの [UPDATE](#) ステートメントは、トリガを正しく起動しなかった ([Bug#39953](#))。
- データベース権限を削除するための [mysql_setpermission](#) 操作を行うと、代わりにグローバル権限が削除された ([Bug#39852](#))。
- C 形式のコメントを含んだストアドルーチンのダンプと再ロードができなかった ([Bug#39559](#))。
- セカンダリインデックスを介した [UPDATE](#) または [DELETE](#) では、InnoDB はカーソル位置を保存しなかった。これにより、InnoDB は、不一致レコードをアンロックしようとしたときに半一貫的な読み取りでクラッシュした ([Bug#39320](#))。
- [セクション 11.13.4.2.3 「Creating Geometry Values Using MySQL-Specific Functions」](#) にリストされている関数は、以前は WKB 引数を受け入れて、WKB 値

を返していた。現在は、WKB 引数またはジオメトリ引数を受け入れて、ジオメトリ値を返すようになっている。

[セクション 11.13.4.2.2 「Creating Geometry Values Using WKB Functions」](#) にリストされている関数は、以前は WKB 引数を受け入れて、ジオメトリ値を返していた。現在は、WKB 引数またはジオメトリ引数を受け入れて、ジオメトリ値を返すようになっている ([Bug#38990](#)) 。

- Windows では、[myisam_use_mmap](#) を有効にしてサーバを実行すると、MyISAM テーブルが破損した ([Bug#38848](#)) 。
- [CHECK TABLE](#) は、アップグレードする必要がある MySQL 4.0 以前のサーバによって MyISAM テーブルが作成されたかどうかを正しくチェックしなかった。そのため、MySQL 5.1 以上へのアップグレード時に問題が生じる可能性があった ([Bug#37631](#)) 。
- 同じ [DES_ENCRYPT\(\)](#) 値を各行に使用してカラムを更新する [UPDATE](#) ステートメントは、実際にはそれぞれの行を異なる値で更新していた ([Bug#35087](#)) 。
- 共有メモリ接続の読み取り方法と書き込み方法では、非同期クローズイベントを正しく処理できなかった。これにより、クライアントがロックアップしてサーバの応答を待つ可能性があった。たとえば、[mysql_real_query\(\)](#) の呼び出しは、実行したステートメントがサーバ側で中止された場合にクライアント側で永久にブロックされた。バグレポートとパッチについては、Armin Schöffmann 氏によるものである ([Bug#33899](#)) 。
- [CHECKSUM TABLE](#) は、[KILL QUERY](#) では強制終了できなかった ([Bug#33146](#)) 。
- [myisamchk](#) と [myisampack](#) は、*ファイル名パターン拡張のサポートを有効にしたライブラリにリンクされていなかった ([Bug#29248](#)) 。
- 独自の [.ibd](#) テーブルスペースファイルを持つ InnoDB テーブルの場合、[ibuf cursor restoration fails!](#) という不必要なメッセージがエラーログに書き込まれる可能性があった。この警告は抑制されるようになっている ([Bug#27276](#)) 。
- トランザクションに変更がない場合、[COMMIT](#) はセーブポイントを削除しなかった ([Bug#26288](#)) 。
- いくつかのメモリ割り当て関数は、戻り値が [out-of-memory](#) かどうかチェックされていなかった ([Bug#25058](#)) 。

※本翻訳は、理解のための便宜的な訳文として、オラクルが著作権等を保有する英語原文を NRI の責任において翻訳したものであり、変更情報の正本は英語文です。また、翻訳に誤訳等があったとしても、オラクルには一切の責任はありません。